



Data

監督: マーティン・スコセッシ
 原作: チャールズ・ブラント『I Heard You Paint Houses』
 出演: ロバート・デ・ニーロ/アル・パチーノ/ジョー・ペシ/ボビー・カナヴェイル/レイ・ロmano/ハーヴェイ・カイテル/スティーン・グレアム/ドメニク・ランバルドツィ/アンナ・パキン/ジェレミー・ルーク/ジョゼフ・ルツ

👁️👁️ みどころ

『ROMA ローマ』(18年)の大絶賛以降、Netflix 作品が急速に注目されている。『ゴッドファーザー』3部作(72年、74年、90年)の向こうを張るかのように、本作はマーティン・スコセッシ監督がロバート・デ・ニーロとアル・パチーノの二枚看板を起用して、マフィアの世界とそこを生き抜いた一人のアイリッシュマンの人生を描いたもの。

主人公はトラック運転手から、訳あって“殺し屋”に転じたが、マフィアの世界ってそれほど魅力的? また、ジョン・F・ケネディ大統領とマフィアとの関係は? 本作を観ていると、米国社会の闇の深さがよくわかる。

スペクタクルシーンがなく、会話劇中心になるのがNetflix 作品の特徴だから、そこに物足りなさはあるが、209分の一大叙事詩をしっかりと楽しみたい。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■映画は勉強! ジミー・ホッフア失踪事件とは? ■□■

映画は勉強。映画は知識の宝庫。-本作を観てそれを実感! 私もあなたも、きっと全米トラック運転手組合 (IBT) の委員長ジミー・ホッフア (アル・パチーノ) の名前を知らないはず。また、1975年に起きた彼の失踪事件も知らないはずだ。他方、本作の冒頭、車椅子に座ったまま回顧談を語り始める、元トラック運転手から「マフィアの殺し屋」に転じた男フランク・シーラン (ロバート・デ・ニーロ) も知らないはず。さらに、彼が何故アイリッシュマンと呼ばれる殺し屋になったのかも知らないはずだ。

原作はチャールズ・ブラントのノンフィクションで、本作はアメリカの動画配信サービス Netflix が製作したもの。そのため3時間29分の長尺だが、見応え十分。大阪では2週間だけの限定公開だが、こりゃ必見!

■□■スコセッシ監督がマフィアの世界を二枚看板で！■□■

フランシス・フォード・ Coppola監督の代表作が『ゴッドファーザー』3部作（72年、74年、90年）なら、俺は本作で！マーティン・スコセッシ監督がそう考えたかどうかは知らないが、ロバート・デ・ニーロとアル・パチーノというハリウッドの二枚看板を起用して描かれる、本作のマフィアの世界、全米トラック運転手組合の世界、さらにそれらと繋がった政治の世界はすごい。マフィアたちの言葉によると、ケネディを大統領にしたのも「俺たちの力」らしい。しかるに、ケネディ政権の下で司法長官に就任した弟のロバート・ケネディは一体俺たちに何をしているの！そんな会話も次々と・・・。

■□■ロバート・デ・ニーロ演じるアイリッシュマンは何者？■□■

マーティン・スコセッシ監督とロバート・デ・ニーロのコンビは本作で22年ぶり9回目となるから、古くかつ長い。マーティン・スコセッシ監督はイタリア移民の子に生まれ、マフィアとカトリック信仰に囲まれたニューヨークのクイーンズやマンハッタンで成長したそうだから、イタリア移民や「アイリッシュマン」に詳しいのは当然だ。

もともと、本作のメインは、家庭ではよき夫、よき父であろうとするシーランが、外では、第2次世界大戦の出征でイタリア語を覚え、“アイリッシュマン”と呼ばれるマフィアの殺し屋として冷徹に次々と殺しを重ねていく物語だ。もちろん、マフィアの世界では秘密を守ることは絶対！本作ではロバート・デ・ニーロがそんなシーラン役を見事に演じているが、その姿を見れば見るほど、その表と裏の姿の乖離ぶりに唾然！しかも、本作で彼は特殊効果の手助けもあって、冒頭に登場する年老いたシーランから、若き日のイケイケのアイリッシュマン(?)のシーランまで見事に演じ分けているので、それにも注目！

■□■アル・パチーノ演じるジミー・ホッフアの野望は？■□■

他方、『ゴッドファーザー』で見せた若き日のアル・パチーノの、静かで不気味な存在感は抜群だったが、本作でのアル・パチーノはどちらかというと絶叫型でホッフア役を熱演している。私は1974年の弁護士登録以降ずっと近畿交通共済協同組合の交通事故の事件を処理しているが、これはトラック協会傘下の組織。そのため、私は一時は全国各地のトラック協会の仕事もしていたから、トラック業界には詳しいし親しみもある。

もともと、本作にみるIBTは労働組合だから、さしずめ日本では、かつての国労や動労、そして現在の連合のようなものだ。したがって、その委員長ともなると大きな政治的発言力を持つのは当然で、「大統領に次ぐ権力者」だったというから驚きだ。そんなホッフアの野望は？そして一貫してホッフアを支持している裏社会のボスであるラッセル・ブファリーノ（ジョー・ペシ）との矛盾・対立は？日本の戦国時代は“下克上”が蔓延し、それまでの守護大名が次々と下からの突き上げによって淘汰されていった。その代表例が司馬遼太郎の『国盗り物語』で描かれた土岐家を倒した斎藤道三だが、ひょっとしてホッフアの前にもマフィアの斎藤道三が登場するの？

■マフィアのボス・ブファリーノの利権は？打算是？■

ペンシルベニア北東部のマフィアであるブファリーノ・ファミリーのボスがラッセル・ブファリーノ。この男はおよそ裏社会のボスとは思えない、腰の低い紳士然としたところがミソ。シーランを気に入ったラッセルは、忠実な部下（犬？）として働かせ始めたが、それが当初のみかじめ料の集金から殺し屋にまで広がったからすごい。これは、シーランにそんな潜在能力があったということだが、それを発見し活用したラッセルもすごい。

そんなラッセルがさまざまな利権を巡ってIBTの委員長ジミー・ホッフアと固く結びついていたのは当然だが、ホッフアが1961年に大統領に就任したジョン・F・ケネディよりもニクソン副大統領を支持していたため、ケネディ政権からいらまれてしまったのは大いなる誤算だった。ラッセルたちマフィアは、キューバ革命で失った利権を回復するべくケネディ政権を支持していたから、次第にホッフアとラッセルの関係に揺らぎが生じ始めたのは仕方ない。その結果、ホッフアがケネディの実弟ロバート・ケネディ司法長官から厳しい追及を受けて、1967年に収監されてしまったのに対し、ラッセルの方は側近をIBTの次期委員長に仕立てて権力の保持を狙ったから、もはや2人の絆は風前の灯火？

そんな情勢下、ニクソン大統領の特赦によって1971年に出所してきたホッフアは、満を持してIBTの委員長に復帰しようとしたが、既にその時点の勢力相関図は大きく変わっていた。しかし、かつては家族ぐるみの付き合いで、ホッフアの忠実な部下だったアイリッシュマンのシーランは、今後ホッフアにつくの？それとも、今やホッフアの粛正を決意したラッセルにつくの？

■Netflix作品は今やここまで！更なる成長を！■

第91回アカデミー賞で、『ROMA ローマ』（18年）が監督賞・外国語映画賞・撮影賞を受賞したことを契機として、Netflix作品の評価が一気に高まってきた。そして、第92回アカデミー賞では、『マリッジ・ストーリー』（19年）で女性弁護士役を演じたローラ・ダーンが助演女優賞を受賞したし、本作が作品賞・監督賞・助演男優賞・脚色賞・衣装デザイン賞・撮影賞・編集賞・美術賞・視覚効果賞にノミネートされた。本作については、製作費の高騰と配給権をめぐるさまざまな困難が生まれたそうだが、その評価は上々で『アイリッシュマン』は大胆で、壮大で、一生涯をたちまち駆け抜けるような映画。際立った技術と生々しい演技の数々、そしてダークなユーモアをそなえた、スコセッシによるジャンルの魅力の総決算であり、近年のキャリアの勝利だ。」と絶賛されている。

大スクリーンでの劇場公開を目的としたものではないから、『十戒』（57年）や『ベン・ハー』（59年）のような大スペクタクルシーンは想定せず、どうしても会話劇中心になるのがNetflix配給作品の特徴。したがって、その点に若干の物足りなさはあるものの、ストーリー展開では、タイトルとは正反対の離婚問題をテーマにした『マリッジ・ストーリー』以上に本作は重厚で壮大なものだから、メチャ面白い勉強にもなる。Netflix作品がここまで急成長していることに驚くとともに、今後の成長を更に期待したい。

2019（令和元年）11月28日記、2020（令和2年）3月31日追記